

賃貸マンション入館管理システム 連携数社と開発、全国展開へ

ハイエレコン

ソフト開発の⑧ハイエレコン（西区草津新町一丁目二一―三五、垣原正紀社長）は、ドコモ中国や⑨三宅（佐伯区）、⑩シリウス（中区）など関連数社と連携してユビキタス事業を推進しており、RFID（微小な無線チップ）利用システムや遠隔管理システム等の導入実績を拡大している。

このほど、連携企業とで賃貸マンション専用の入館管理システムの開発に成功した。ジャスタックに上場する不動産関連事業の⑪ディックス（福岡市）を、既に福岡市を中心に五棟で稼働。同システム「ディフェカ」（ディックスクロキが特許出願中）は、入居者固有の番号を持つRFIDタグを内蔵したカードキーを、リーダーにかざし、エンランス扉の開錠とエレベーター操作のロック解除ができる。扉だけのオートロックが一般的だが、エレベーターとの二重セキュリティにしたほか、サーバーをマンションごとに設置する必要がないため、個人情報漏れや機器管理も不要だ。

三宅がRFIDタグとリーダーを

担当。シリウスが、カードキーの認証データをドコモのDopa網を使って、サーバーへ送信するボードを供給する。ハイエレコンはデータセンターで、入館履歴を集中管理するほか、鍵やエレベーターのメーカー、配線工事業者なども取りまとめ、システム全体の構築を手掛けた。

既存のカード型セキュリティシステムの導入費用は、標準的マンション（三〇戸）で二〇〇―三〇〇万円だが、集中管理方式により住戸数に関わり無く一式一〇万円以下に抑えた。ディックスクロキは、賃貸特化のデベロッパーで、投資利回りを追求される不動産ファンド向けとしても低コストの管理システム導入を急いでいた。協力会社⑫ベストテック（福岡市）を総代理店に代理店募集を全国展開する。